

平成 23 年度信州大学第 7 回 FD ショートセミナー

学生の理解度把握について考える(1)

ファシリテーター：松岡幸司
(maulwurf@shinshu-u.ac.jp)
全学教育機構准教授
高等教育研究センター兼任 FD 担当

日時：平成 23 年 11 月 8 日(火) 16 時 30 分～18 時 00 分

場所：メイン会場：信州大学松本キャンパス全学教育機構北校舎 211 番演習室

その他、信州大学各キャンパス、高等教育コンソーシアム信州加盟大学の各会場

前期に実施させて頂いた FD に関するアンケートにあった「授業・教育活動において問題・不安を感じる点」という項目(選択式回答)の中で「学生の理解度把握」と「学生の動機付け」が非常に高いポイントとなっていました。今回と次回の 2 回にわたりその前者「学生の理解度把握」についてみなさんと考えたいと思います。

前編の今回は、「理解度把握」の現状について、みなさんで共通認識を持ちたいと思います。授業のタイプや規模(大講義、演習、語学、ゼミナール他)によって問題点は変わってくると考えられますし、個々の教員が(とりあえず)行っている方法も異なるでしょう。そこで前半のグループワークでは、参加者で「問題点の把握・整理」を行います。引き続き後半では、「(問題があるとしても)現時点で行っている方法」を出して頂き、問題点とのマッチングを参加者のみなさんと考えたいと思います。

この前編の結果を受けて、12 月の第 8 回ショートセミナーでは、問題点に対する具体的な対処法を扱って、理解度把握に関する有効な方法を模索する予定です。

0. 導入(資料は最後のページにあります)

- ・教員アンケート結果に見る、教育や授業における不安な点・問題点
- ・「学生の理解度把握」について
- ・「学生の理解度把握」を考える上での問題点

1. グループワーク①：学生の理解度把握における問題点の把握と整理

- ・問題点を具体的に挙げて、現状を把握し、それを整理します

2. グループワーク②：学生の理解度把握の実践例の共有

- ・うまくいっている/問題点を抱えながらも行っている実践例を出し合って共有します

3. まとめと次回への接続

- ・今日挙げた具体的な問題点と実践例を整理します
- ・その結果を踏まえて、次回のセミナーに向けての課題を考えます。

1. グループワーク①：学生の理解度把握における問題点の把握と整理 (16:40~17:25)

- ・問題点を具体的に挙げて、現状を把握し、それを整理します

1) 問題点を挙げるにあたって

- ・授業形態の違い：講義，語学，演習，ゼミナール，実習...
- ・クラスサイズ：大人数，中サイズ，少人数
- ・専門分野の違い：人文系，社会系，教育系，理工系，医療系...
- ・授業におけるタイミング：はじめ，途中，終わり，授業外...

上記のように分けて考えるとよいのではないか？

2) グループワーク (15~20 分程度)

- ・記録者・発表者を決め，メンバー名とともにプレゼンテーション用紙に記入してください。
- ・学生の理解度把握を行う際に問題となる点を，メンバー内でお互いに挙げ，具体的に文字化してください。自身の経験だけでなく同僚から聞いた話でもかまいません。また，普段漠然とイメージしていることでも，ディスカッションの中で言葉にすることで，問題の所在が明らかになることがあります。ある程度自由に意見交換を行ってください。

←文字化することによって，問題点が，より明らかになります。

- ・以下のような視点も参考にしてください。
 - 方法における問題点
 - 実施における問題点
 - レスポンスにおける問題点
- ・プレゼンテーションで使うために，ディスカッションの内容をプレゼンテーション用紙にまとめてください。
各項目については，書き込める範囲でかまいません。

3) プレゼンテーション：(10~15 分程度)

- ・ディスカッション内容の共有を目的に各グループにプレゼンテーションをしてもらいます。
- ・各グループの持ち時間は 1~3 分です。
(制限時間は，当日のグループ数によって異なります)
- ・制限時間でプレゼンテーションは終了です。時間厳守でお願いします！

☆ プレゼンテーション用紙は，後で回収し，次回に向けての資料としてまとめ直して使わせて頂きます。

4) プレゼンテーション内容を整理してまとめ，確認とディスカッションをします。

(10 分程度)

(個人メモ用)

グループワーク①:学生の理解度把握における問題点の把握と整理			
メンバー			
記録者		発表者	
授業形態		クラスサイズ	
授業の分野		タイミング	
問題点			
授業形態		クラスサイズ	
授業の分野		タイミング	
問題点			
授業形態		クラスサイズ	
授業の分野		タイミング	
問題点			
授業形態		クラスサイズ	
授業の分野		タイミング	
問題点			
授業形態		クラスサイズ	
授業の分野		タイミング	
問題点			

2. グループワーク②：学生の理解度把握の実践例の共有 (17:25~17:50)

・うまくいっている/問題点を抱えながらも行っている実践例を出し合って共有します

1) 実践例を挙げるにあたって

グループワーク①と同様に、下記の情報を明示してください。

- ・授業形態の違い：講義，語学，演習，ゼミナール，実習...
- ・クラスサイズ：大人数，中サイズ，少人数
- ・専門分野の違い：人文系，社会系，教育系，理工系，医療系...
- ・授業におけるタイミング：はじめ，途中，終わり，授業外...

2) グループワーク (10~15 分程度)

- ・記録者・発表者を決め，メンバー名とともにプレゼンテーション用紙に記入してください。
- ・学生の理解度把握を行っている/行ったことがある実践例を，メンバー内でお互いに挙げてください。自身の経験だけでなく同僚から聞いた話，あるいは普段漠然と考えていることや思いついたことでも，かまいません。ある程度自由に意見交換を行ってください。
- ・プレゼンテーションで使うために，ディスカッションの内容をプレゼンテーション用紙にまとめてください。

3) プレゼンテーション： (10 分程度)

- ・ディスカッション内容の共有を目的に各グループにプレゼンテーションをしてもらいます。
- ・各グループの持ち時間は 1~3 分です。
(制限時間は，当日のグループ数によって異なります)
- ・制限時間でプレゼンテーションは終了です。時間厳守でお願いします！

☆ プレゼンテーション用紙は，後で回収し，次回に向けての資料としてまとめ直して使わせて頂きます。

4) プレゼンテーション内容を整理してまとめます。

(個人メモ用)

グループワーク②:学生の理解度把握の実践例の共有			
メンバー			
記録者		発表者	
授業形態		クラスサイズ	
授業の分野		タイミング	
実践例			
授業形態		クラスサイズ	
授業の分野		タイミング	
実践例			
授業形態		クラスサイズ	
授業の分野		タイミング	
実践例			
授業形態		クラスサイズ	
授業の分野		タイミング	
実践例			
授業形態		クラスサイズ	
授業の分野		タイミング	
実践例			

0. 導入：「学生の理解度を把握すること」について (16:30~16:40)

1) 信州大学の FD に関する教員アンケート結果から

6 授業・教育活動において問題・不安を感じる点(複数回答可)

	全学		人文		教育		経済		理学		医学		工学		農学		繊維		イノベ		法科		機構	
1.授業に必要な学問上の知識・理解	77	16.5%	5	13.2%	17	23.3%	1	3.4%	7	16.3%	13	27.7%	9	10.8%	13	25.5%	7	14.6%	1	14.3%	3	18.8%	1	3.2%
2.学生の学力把握	121	26.0%	8	21.1%	14	19.2%	6	20.7%	12	27.9%	10	21.3%	25	30.1%	16	31.4%	17	35.4%	2	28.6%	4	25.0%	7	22.6%
3.学生の理解度把握	150	32.2%	6	15.8%	23	31.5%	14	48.3%	15	34.9%	10	21.3%	30	36.1%	20	39.2%	15	31.3%	2	28.6%	4	25.0%	11	35.5%
4.学生の動機付け	179	38.4%	16	42.1%	19	26.0%	14	48.3%	15	34.9%	21	44.7%	40	48.2%	18	35.3%	18	37.5%	2	28.6%	4	25.0%	12	38.7%
5.シラバスの書き方	11	2.4%	1	2.6%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	6.4%	1	1.2%	3	5.9%	1	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.2%
6.教科書の選び方	21	4.5%	0	0.0%	4	5.5%	1	3.4%	2	4.7%	2	4.3%	3	3.6%	2	3.9%	5	10.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.5%
7.視覚教材・機材の使い	43	9.2%	4	10.5%	10	13.7%	2	6.9%	1	2.3%	2	4.3%	8	9.6%	7	13.7%	7	14.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.5%
8.eAlpsの使い方	77	16.5%	6	15.8%	17	23.3%	6	20.7%	2	4.7%	12	25.5%	9	10.8%	8	15.7%	11	22.9%	0	0.0%	2	12.5%	4	12.9%
9.話し方	52	11.2%	1	2.6%	5	6.8%	5	17.2%	5	11.6%	6	12.8%	13	15.7%	5	9.8%	6	12.5%	1	14.3%	1	6.3%	4	12.9%
10.板書の仕方	54	11.6%	2	5.3%	8	11.0%	3	10.3%	6	14.0%	6	12.8%	11	13.3%	8	15.7%	7	14.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	9.7%
11.積極的参加の促し方	99	21.2%	8	21.1%	16	21.9%	6	20.7%	10	23.3%	10	21.3%	16	19.3%	8	15.7%	10	20.8%	1	14.3%	4	25.0%	10	32.3%
12.集中させる方法	94	20.2%	6	15.8%	5	6.8%	6	20.7%	12	27.9%	9	19.1%	18	21.7%	15	29.4%	14	29.2%	1	14.3%	4	25.0%	4	12.9%
13.宿題・課題の出し方	60	12.9%	6	15.8%	6	8.2%	2	6.9%	9	20.9%	3	6.4%	10	12.0%	9	17.6%	8	16.7%	1	14.3%	1	6.3%	5	16.1%
14.成績評価方法	58	12.4%	5	13.2%	11	15.1%	0	0.0%	4	9.3%	7	14.9%	7	8.4%	3	5.9%	11	22.9%	0	0.0%	6	37.5%	4	12.9%
15.他教員との連携	45	9.7%	1	2.6%	7	9.6%	2	6.9%	6	14.0%	1	2.1%	8	9.6%	8	15.7%	7	14.6%	1	14.3%	1	6.3%	3	9.7%
16.事務職員との連携	26	5.6%	3	7.9%	5	6.8%	0	0.0%	2	4.7%	1	2.1%	7	8.4%	3	5.9%	3	6.3%	0	0.0%	1	6.3%	1	3.2%
17.新たな教育手法	56	12.0%	4	10.5%	12	16.4%	2	6.9%	6	14.0%	6	12.8%	7	8.4%	8	15.7%	5	10.4%	0	0.0%	3	18.8%	3	9.7%
18.ピアレビュー	14	3.0%	2	5.3%	3	4.1%	0	0.0%	1	2.3%	1	2.1%	1	1.2%	3	5.9%	1	2.1%	0	0.0%	1	6.3%	1	3.2%

2) 「学生の理解度把握」について

- ・理解度把握の目的と必要性

- ・理解度把握の手法

3) 「学生の理解度把握」を考える上での問題点

3. まとめと次回への接続 (17:50~18:00)

1) 問題点と実践例の整理

2) 次回に向けた課題